

第3回福島県双葉郡子供未来会議 実施報告

1. 主催

福島県双葉地区教育長会

2. 日時・場所

平成25年10月26日(土) 11:00~17:00

郡山市役所(福島県郡山市)

3. 参加者

59名

- ・福島県双葉郡の児童生徒 11名
- ・同保護者 8名
- ・その他関係者(双葉地区教育長会、福島大学学生、福島大学関係者、行政関係者等) 40名



4. 概要

双葉郡8町村の小中高校生11名が集まり、双葉郡教育復興ビジョンの具現化に向けて、保護者9名と福島大学学生ボランティアをはじめとした教育関係者38名も加わりながら、ワークショップを行った。台風の影響があり参加者数が少ないながらも、大熊町の高校生の司会進行のもと、一人一人の意見を大切に対話は進行し「双葉郡のこれからの教育、学校で、新しくしたいもの、変えたくないもの」について多くの意見や思いが話し合われた。

「地域」をキーワードに議論するグループがいくつかあり、教室の中が先生だけでなく地域のいろいろな人が関わるといった「地域の人たちとみんなで作る学校」や「様々な人たちの価値観に触れる重要性」をテーマに話し合われた。様々な職業の人とふれあったり、海外留学の機会でも異文化に触れたりすることで主体として考える意思を持ち自らを成長させることが重要であると意見交換がされた。また、「義務教育の内容とやり方について」や「学科やカリキュラムを専門外から考える」というテーマについては、双葉郡教育復興ビジョンの具体化への議論がなされた。実際の教育現場と教育を作る側のギャップをどう埋めていくか、決められた勉強をどうのびのびと勉強していくかなど理想と現実のギャップがあることが課題とされた。

与えられないとできない勉強ではなく、自ら「アクション」を起こすことで、多文化とふれあうことの重要性や、この会議のようなディスカッションを通じて新たな価値観に触れることで成長できると議論された。

また、双葉郡教育復興ビジョンについて、これからの双葉郡の教育について、今のサテライト

高校の生徒達の生の声をはじめ教員やPTAなどの現場の声を聞いてほしいという要望が出た。

終わりに、南郷文部科学省生涯学習政策局参事官付専門職から「この子供未来会議を通じて、初心を思い出した。双葉郡の子供たちの想いを受けて、夢を実現する力に結びつけていくこと、文科省として予算面含め徹底的に支援していく覚悟である。この計4回の会議によって知恵を寄せ合うところで教育復興ビジョンにおける学校の形がリアルになってきたので、今後も共に意見交換をしながら一緒に歩いていきたい。」と講評があった。福島大学千葉学類長からは、「福島大学の学生さんと一緒にこの会議に参加し、共に学ぶことができました。双葉郡からの新しい教育を大学として関わっていき、やれることからやりたい」と講評があった。また森下福島県教委教育総務課長からは「現在、教育復興ビジョンの実現に向けて、本日の様々な意見をしかと受け止めている。地域の声などいろんな意見を聞くことで良い方向に変わっていくため、引き続きみなさまの声を聞かせてください」と感謝の意が述べられた。最後に双葉郡教育復興に関する協議会の協力委員である東日本大震災復興支援財団の荒井専務理事より「新しく学校を作るということは本当に難しいことではあるが、双葉郡といえばあの中高一貫校だよねと言われるような学校を、みんなで一緒に作っていきましょう」と講評があった。

最後に伝達式として、今までの参加者の意見を、参加子供たち代表4名より双葉地区8町村教育長へ提出された。参加生徒代表の大熊町出身の根本寛子さんより、「私達の想いを教育長さん達に提出させていただきます。この意見と想いを1つでも多くではなく、すべて意見が実現できるようにお願いいたします。双葉郡といえばあの中高一貫校だよねと言われるような新しい学校を私達と一緒に作っていきましょう。」と双葉郡教育復興ビジョンの実現と子供未来会議で議論され参加者の想いが提出された。

閉会にあたり、武内双葉地区教育長会長（大熊町教育長）から、主催者として参加者及び関係者に御礼が述べられるとともに、「本日の話し合いの中。具体的な提案をいただき、これらを1つもらさず実現していきたい。また今日1日の間で『学校として新しくすること、変えずに残しておきたいこと』をテーマに議論がなされた。授業のあり方や地域の人とも学ぶことなど議論されたが、学んだことの証とは自分が変わり『アクション』していくことである。明日から動いていきたい」と双葉郡教育復興ビジョンの具現化に向けての決意が述べられ、閉会した。

5. 主な意見

午後の冒頭、前回内容の紹介がなされた後、さらに深めて議論するテーマとして子供たちや保護者から5のテーマの提案が出された。（「地域の人たちとみんなで作る学校」「義務教育の内容とあり方」「アクション」「学科やカリキュラムを専門外から考える」「様々な経験・価値観・多様性にふれる」）その後、主に下記のような議論が行われた。

（1） 地域の人たちとみんなで作る学校

今の学校は主に生徒と先生の関係だけである。それだけではなく、地域という場所に足を運んで地域の人のお話を聞くことで学べることもあるうえ、地域で孤独になる人がいなくなるのではないかと。震災後、学校・家庭・地域のバランスが崩れてしまった。地域に人が戻ってくるためには何をしなければいけないのか考えたい。

今、地域のバランスが崩れてしまっていて、地域を活性化するために、一人だと自分の考え

だけが正しいと思ってしまうので、みんなで集まっている色々な意見をまとめていき考えていくことで、未来が作られていく。

(2) 義務教育の内容とあり方

先生が教えるだけの一方向的な教育ではなく、生徒同士で教え合うような生徒が主体となった授業であれば、生徒自身が考えて決めていくことで成長することができるのではないかと。応用クラスや基礎クラスに分けることは優劣の差ではなく、得意不得意を見極めて互いに教え合い支え合うことで、個人に合った授業が必要である。

中学校の授業のやり方について、自分から学習しようという主体的な学びの場が必要である。先生にやらされるのではなく、自分から動く授業がいい。授業をわかりやすくするのはなく、友達同士でコミュニケーションをとりながら勉強することで理解が深まるのではないかと。授業を受ける立場だけでなく、勉強は決められたことをするのはなく、のびのびした教育を受けたいが、教育現場と行政の間には、理想と現実のギャップがあることがわかった。お互いの立場を考えて、勉強していくことが大事である。

(3) アクション（新たな教育）

・アクションをするには、きっかけが大事である。多文化に触れるなど、きっかけを自分から見つけられる機会があると良い。たとえば、講演会など学校側で増やすことでいろんな職業の人が何をしているのかを聞くことで、自分は将来こうなりたいという目標を見つけられるきっかけになる。また、自分から見つけることができない人へのサポートする力もつけると、多くの人との関わることができるのではないかと。

・アクションでどういう教育を受けたいかを話し合った。今、DSとかタブレットを使った授業が最近あり、最先端技術を活用すれば楽しく授業を受けることができるのではないかと。設備を充実させれば快適に授業を受けることができる。少人数授業であれば、一人一人の得意なところ、長所をのばすような教育を受けたい。生徒同士のつながりも濃くなるのではないかと。

・授業で習うこと以外でも、将来役に立つこともたくさんある。授業では今だと自分を生かせる場があまりない。生かせる場を作るためには、それまででも基礎的な学力も必要であり、それらを学ぶためには、「このために学んでいかななくてはいけない」など必要性がわかれば自ずと、今までの授業をよりよく理解することができるのではないかと。現在、復興しなくていけないという気持ちがあるため、今まで以上に学びの必要性を聞かせる場が必要である。また、多文化に触れたり、ディスカッションしたりすることを通じて社会性を養うことができるようになる。

・自分一人で考えることは小さいことであるが、アクションでは、多くの人で話し合うことで、段階的に考える、学ぶことが必要だと話し合われた。しかし、この新しい教育は最新の教育であると同時に、本来の教育にもどることもある。アクションを起こすことはどういったことなのかを、みんなが考える意識をもち、主体的に学びたいと思い、学びを深めることができる。自分のできる範囲で広げていきたい。

(4) 学科やカリキュラムを専門外から考える

新しい中高一貫校についてはまだカリキュラムは白紙である。普通科、スポーツ科等も予定されるのではないか。世界に通じる学校になるべきである。英語とか国際的に使えるような能力を付けることが大事。今日話し合われたみんなの意見を盛り込んでほしい。

(5) 様々な経験・価値観・多様性にふれる

様々な職業の人に来てもらったり、話し合うような授業をしたりすることで、多くの価値観に触れることができる。また、海外留学を通じて異文化を知ることができ、その多様性について触れることができる。しかし、その機会にたどり着かない生徒たちも多いので、うまくその機会を利用できるきっかけを与えることが大事。そして、より継続な取組が大事なのではないか。

《参考：参加者詳細》

○参加者 59名

・福島県双葉郡の児童生徒及び保護者 合計19名

- 葛尾村 2名（小学生1、中学生0、高校生0、保護者1）
- 檜葉町 1名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者1）
- 大熊町 4名（小学生0、中学生0、高校生3、保護者1）
- 浪江町 1名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者1）
- 双葉町 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）
- 広野町 3名（小学生1、中学生0、高校生1、保護者1）
- 川内村 4名（小学生2、中学生0、高校生0、保護者2）
- 富岡町 4名（小学生0、中学生1、高校生2、保護者1）

・その他関係者 40名

- 福島県双葉郡8町村 教育長、各町村教育委員会関係者、
- 福島大学ボランティアスタッフ、福島大学関係者、福島県教委、文部科学省 等

《参考：日程詳細》

平成25年10月26日（土） 11:00～17:10

11:00～11:10 開会挨拶・「双葉郡教育復興ビジョン」の紹介 川内村秋元教育長

11:10～12:45 午前の部（ワールドカフェ）

11:10～11:15 午前の部進行説明

11:15～11:30 「これからの教育、学校で新しくしたいもの、変えたくないもの」について小学生、中高生、保護者、大人のグループに分かれて話し合い

11:30～12:35 グループを移動、上記テーマについて年齢の区別なく話し合い

12:35～12:45 元のグループに戻って議論の共有

12:45～13:45 休憩

13:45～16: 午後の部（オープン・スペース・テクノロジー）

13:45～14:05 前回（第1回、第2回）に出た意見内容報告

14:05～14:15 テーマ出し、テーマごとの意見交換

15:15～15:35 イブニングニュース

- 15:35~16:00 ニュース
- 16:00~16:20 アンケート記入
- 16:20~16:40 講評（文科省南郷専門職、福島県教委森下課長、福島大学千葉人間発達文化学類長、東日本大震災復興支援財団荒井専務）
- 16:40~17:00 伝達式 閉会挨拶 大熊町武内会長

